



シェイクスピアとの 往還

日本シェイクスピア協会
創立六〇周年記念論集

日本シェイクスピア協会 編

研究社



日本シェイクスピア協会〔編〕

シェイクスピアとの往還

日本シェイクスピア協会創立六〇周年記念論集

四六判 上製 256 頁／定価 4,180 円（本体 3,800 円＋税 10 %）

ISBN 978-4-327-47237-5 C3098

2021 年 10 月 26 日発売予定

内容紹介

今年で創立 60 年を迎える日本シェイクスピア協会の最新論文集です。

ベテランから若手までの 12 名の寄稿者を迎え、シェイクスピアの作品論（第 1 部）、

エリザベス朝演劇論、テキスト論、受容・翻案論（第 2 部）を展開しています。

「還暦」を迎えた同協会は、シェイクスピアとの対話と往還を長年続けてきましたが、この新しい論集でも、丁寧なテキスト読解を堅持しながら、シェイクスピアとの「往還」の新しいかたちを提案しています。

目 次

- I
- | | |
|-------|---|
| 杉浦裕子 | "Hark, who is't that knocks?"——『オセロー』四幕三場のノックの音についての一考察 |
| 松田幸子 | 「母とは呼べない、もはや墓場だ」——『マクベス』と死せるスコットランド |
| 前原澄子 | 『お気に召すまま』における修辞のパロディ |
| 五十嵐博久 | 『尺には尺を』における権力とエクイティ |
| 篠崎 実 | 「嘆かわしい一幕」——『リチャード二世』検閲説をめぐって |
| 森祐希子 | 植物誌・園芸書と『リチャード二世』の庭 |
| 鶴田 学 | イングランド中部地方から読み解く『ジョン王』 |
- II
- | | |
|-------|--|
| 佐野隆弥 | シェイクスピアを諷刺する——パルナッソス劇と世紀転換期の諷刺文化 |
| 河合祥一郎 | シェイクスピア初期版本の話者表示（speech-prefix） |
| 英 知明 | ある詩人のファースト・フォリオ——一七世紀の旧蔵本 |
| 内丸公平 | シェイクスピアを教える夏目漱石
——「マクベスの幽霊に就て」から「坪内博士と『ハムレット』」へ |
| 川野真樹子 | 二人の「オフィーリア」
——堀正旗『ハムレット現代に生きなば』（一九三〇）における女性像 |